

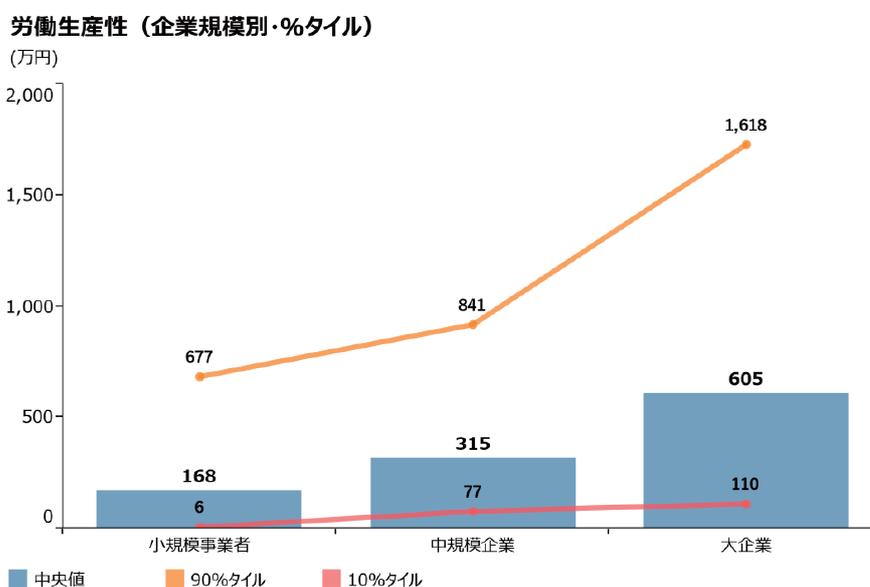
## 今後の中小企業経営と政策の方向性についての検討

学習院大学経済学部

滝澤美帆

- ① 中小企業経営者は何を意識してどのような経営をおこなうべきか。
- ・中小企業経営に大きな影響を与える①から⑨の環境変化のいずれに対応するためにも、引き続き、生産性の向上を意識した経営を行うべき。
  - ・中小企業の生産性の現状に関する以下の図を見ると、規模が小さくても生産性が大企業の中央値を超える事業者も存在する。つまり、生産性に関する事業者間の異質性が高い状態。規模が小さくても生産性を向上させる余地はまだある。

<第 1-3-16 図>



資料：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」再編加工

(注) 1.ここでいう「小規模事業者」とは、中小企業基本法に定める「小規模企業者」のことを指し、「中規模企業」とは、中小企業基本法に定める「中小企業者」のうち、「小規模企業者」を除いた者をいう。「大企業」とは、「中規模企業」と「小規模事業者」以外の企業をいう。

2.ここでいう労働生産性とは、企業ベースの「純付加価値額/従業者数」とする。

3.非一次産業の値を集計している。

出典) 2024年版 中小企業白書・小規模企業白書

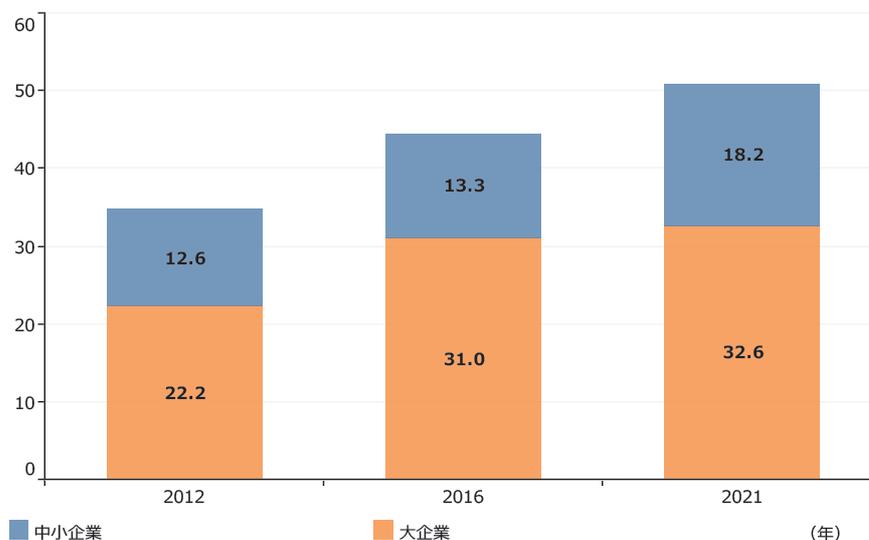
- ・労働生産性向上のためには①資本装備率の向上、②全要素生産性の向上の2つが必要。
- ①に関しては設備投資を促進することが重要だが、足元、中小企業についても設備投資が増えてきているのはよい傾向。設備投資というと大掛かりなイメージがあるが、ソフトウェアなどICT投資を行うなども含まれる。新しい技術を取り入れるために投資は

必要で、着手しやすい投資から実行することが大事。

<第 1-3-21 図>

設備投資額の推移（企業規模別）

(兆円)



資料：総務省・経済産業省「平成24年、平成28年、令和3年経済センサス-活動調査」再編加工

(注) 1. 中小企業基本法第2条の規定に基づく中小企業者を、「中小企業」とし、それ以外を「大企業」としている。

2. 非一次産業の会社及び個人企業を集計している。

3. 設備投資額については、有形固定資産（土地を除く）と、無形固定資産（ソフトウェアのみ）の取得額の合計を示している。

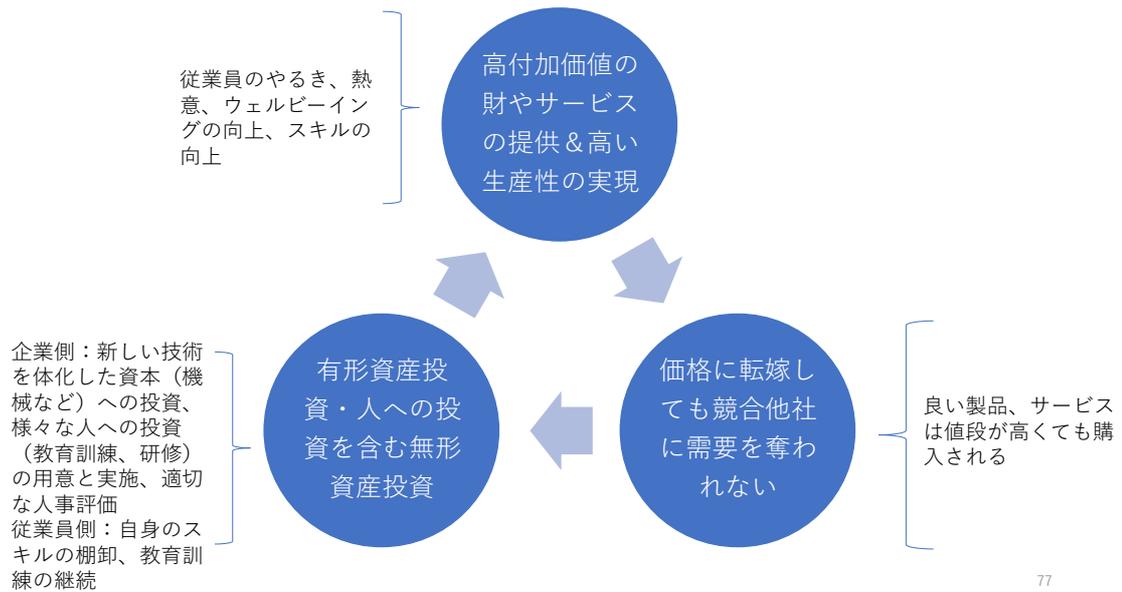
出典) 2024年版 中小企業白書・小規模企業白書

・全要素生産性を向上させるには、また上記設備投資の効果を十分に発揮させるには、人への投資が重要であることは言うまでもない。中小企業においては大企業より人への投資が平均的に少ない傾向がある（特にO f f - J T）。新しい知識の習得にはO f f - J Tも有効。

・以下の概念図にあるような、投資（有形・無形）（→従業員のやる気、ウェルビーイング向上）→高付加価値化→差別化されているため値上げが実現、といったよい循環を目指すべき。

・生産性の分母の効率化のためには、企業間協力もあり得る。

・規模を拡大することによる生産性向上も検討に値する取り組み。（白書のデータによれば、実際は規模に変化がない事業者を除くと、規模を拡大した事業者よりも縮小した事業者の方が多いが。）



② 上記①を踏まえ、現在の中小企業政策をどう評価し、今後いかにあるべきか。

- ・成長企業への支援策全般、規模拡大を促進する支援策などは生産性向上への寄与が期待される政策である。
- ・廃業を希望する事業者への支援も重要。
- ・一方で、事業継続の後押し（資金繰り支援）については、本来倒産、廃業すべきではない事業者への支援に集中すべき。
- ・各種支援については、指摘するまでもないが、どういった効果をもたらしたのかを適切な手法で事後的に評価し、次なる政策につなげるべき。（多くの政策が行われているため、金額の大きな政策を中心に評価を行うべき。）その際には、政策立案の段階から、評価のために必要なデータを整理し、収集の準備をするべき。